

まる市で“つどう・つなぐ・つくる”実現

磨き合い成長 バトンつなぐ

埼玉県川口市で生まれ育ち、花屋に就職して数年働いた後、両親が先に移住していた常陸大宮市へ。丈さんと出会い、結婚して小美玉市の丈さんの実家で同居。結婚を機にコーヒー店で勤務し、出産を機に退職しました。

育児をしながら花屋と併設のカフェを構想している時に、小美玉市のマーケティングスクールがスタート。「まだ1歳の娘を『見ててあげるから行っておいで』と言ってくれた夫の両親には本当に感謝しています。同居してなかったら参加できなかったし、カフェもオープンできなかった」と振り返ります。

参加メンバーにみのゝれの魅力を語る人がたくさんいて、「みのゝれは住民自ら企画し、互いに磨き合って成長

していくための場だと知り、娘をこういうところで育てたいと思いました」。娘が小2からMyuに入り、保護者として関わるうちに、多様な人たちが集まってプロジェクトを動かすことにも興味が高まりました。

コロナ禍でカフェからアート工房に業態を変化するタイミングで、小美玉市のダイヤモンドシティ・プロジェクトで小商いを創出するプロジェクトに講師で招かれました。羽鳥駅前前の芝生広場でマルシェを実験的にを行い、これが後に現在の「まる市」に。主催の実証実験が終わり、「このまま終わらせていいの？」と安達将伍さんと保田孝雄さんがみのゝれに繋ぎ、小美玉さくらフェスティバルの一環としてまる市をみのゝれとの共創で展開。木工、メイク、写真、デザインなどを子どもたちが体験できる「子どもクリエイター体験」

に親子連れが殺到するヒット企画となりました。まる市が正式にみのゝれの1つのプロジェクトチームとなり、組織化。周囲に推される形で「絶対イヤ」と言っていた代表に就任することに。覚悟を決め、いろんな人に教えを請い、ノウハウを吸収しながら、多くの賛同を集め、体制も強化。コアメンバー5人とサポーター6人の11名体制で、4チームに分かれて主体的に展開し、稲毛さんが統括します。

11月3日にみのゝれで開催するまる市は、飲食が10店程度、物販が20〜30店になる予定。みのゝれのミッション「つどう・つなぐ・つくる」から連想し、コンセプトを「つくる楽しさ・つどう楽しさ・未来へつなぐ」としました。「私はバトンをつなぐ役目」と語る稲毛さん。代表としてしっかりと未来を見据えています。

(藤田佐知子)

花屋とコーヒー店で身につけた技術を活かして、自らの手で改装したカフェを開業。第1回全国ヨークルトサミットやシテイプロモーションのメンバーが集まる拠点として人々をつなぎ、コロナ禍以降は、カフェを夫の丈さんと共にアート工房Jiningに変身。マルシェ「まる市」の代表に就任した小美玉市北浦区にお住まいの稲毛幸子さんにインタビューします。



Omitama まる市 代表

いな げ ゆき こ
稲毛 幸子 さん

みのゝれと共に生活するスタイル

Minole Life
のすすめ

No.204